図書館業務における ChatGPT を活用した POP 制作とそのテキスト分析

22011236　中台葵

本研究の目的は、図書館の POP を活用して、ChatGPT の特徴と新たなクリエイティブの可能性を探求することである。近年、人工知能はその進化により、言語処理や自然言語生成の分野で非常に優れた成果を上げており、この可能性を図書館業務の中でも、特に POP 制作に活用することで、利用者である大学生に対してより魅力的な図書館となるように，効果的に業務を遂行することが期待される。

本研究の動機として、私が図書館でアルバイトをしている経験から、POP 制作の難しさやその制約を痛感していることに起因する。時間と労力の著しい消費、デザインやアイディアの繰り返し、新しいアプローチの不足など、POP 制作に関連する課題は数多い。しかし、近年の AI 技術の進化は、これらの課題への新しい解決策を提供する可能性があると考えられる。そのため、本研究を通じて、ChatGPT を用いた図書館の POP 制作における新たな表現やアイディアの可能性を探求し、AI が実際の業務にどのように貢献できるかを検証する。一方で、AI にとってはクリエイティブな活動をすることに弱点があり、作成した POP が本当に魅力的で、有益かを確認する必要がある。

研究手法として、まず、多摩大学の図書館において所蔵する書籍の中から 10 のジャンルごとに 10 冊を選定し、その書籍について ChatGPT を活用した POP の作成を行う。ここでのポイントは、プロンプティングの工夫である。アニメ風やアナウンサー風など、異なる系統をもたせて、多様なスタイルの POP を生成することを試みる。次に、生成された POP のテキスト分析を実施する。具体的には、ワードクラウド分析を用いて頻出する単語やキーワードを視覚的に把握する。さらに、単語ペアネットワーク分析により、テキスト内の単語間の関連性を明らかにする。最後に、トピックモデル分析を使用して、テキストからの主要なテーマやトピックを抽出する。これにおいて、分析により分類されるグループと、実際に書籍情報によるグループとの違いを検討する。

想定される結果として、ChatGPT の特性や、AI を活用した POP 制作の効果・限界が明確になることが期待される。また、テキスト分析により、AI が生成するテキストの特性やパターンの把握が可能となり、その結果をもとに、更なるプロンプティングの工夫や、POP 制作の向上策を考察することができるであろう。

本研究は、図書館の業務における新たな取り組みとして、ChatGPT の活用可能性を探るものである。AI 技術を現実の課題に応用することで、図書館業務の質や効率を向上させる新しい手法を提供することを目指している。